

ウイルス学会関連研究集会紹介

2. 第12回みちのくウイルス塾報告 (7月13・14日)

西村 秀一

独立行政法人国立病院機構仙台医療センター
臨床研究部ウイルスセンター

この7月13, 14日, 毎年この時期恒例の, 夏の学校『みちのくウイルス塾』が当院大会議室を会場に開かれました。日本ウイルス学会教育研究支援委員会と当院の地域連携室の共催のこの会も, 最初から数えて12回目です。

講師と演題は以下の通りです。(敬称略)

(初日)

1. 「エボラ出血熱」…糸のような形の, やさしそうで怖いウイルスの話

北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター教授 高田礼人

2. 「新しいダニ媒介性感染症」…今, 話題の新興感染症, 重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)

国立感染症研究所ウイルス一部部長 西條政幸

3. 「共生か矯正か?」…持続するウイルス, とくにヘルペスウイルス, レトロウイルスの話

長崎大学大学院医歯薬学 感染病態制御学分野教授 森内浩幸

4. 特別講演「センダイウイルスは, なぜ肺に病気を起こすのか?」…みちのくウイルス学の花: 仙台に産声をあげ, ウイルス学を先導したセンダイウイルス研究, そのオリジン…

神戸大学名誉教授・山形厚生病院長 本間守男

(2日目) 特集「ウイルスを観る」

1. 「目で観るインフルエンザウイルスの増殖メカニズム」…電子顕微鏡ってすごい! ウイルスってきれい!

東京大学医科学研究所ウイルス感染分野准教授 野田岳志

2. 「運動し, 情報処理するウイルス」…レセプターの草むらを転がりまわるウイルスを観る: ウイルスってかわいい!

川崎医科大学微生物学講座助教 堺立也

3. 「細胞をハイジャックするウイルス」…ウイルス構造蛋

白の動きを生きた細胞の中で観る: ウイルスってかشこい!

日本大学医学部消化器肝臓内科研究員 芝田敏克

初日は, エボラウイルスの研究について, 安全のためにカナダの実験室で宇宙服のような服を着て実験する様子やアフリカでコウモリを捕まえてウイルスハンティングする様子の, 生々しい動画付きの講義に始まり, 次に今話題のマダニ媒介性の重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) の話, さらには, ウイルスがヒトに起こす病気とヒトに共生するウイルスの話があり, 最後は, 特別講演として, 戦後まもなく仙台で発見されたセンダイウイルスについて, 研究の歴史的な話を研究の元祖ともいえる本間守男先生にしていいただきました。予定時間が終了した後も, 会場からの要望に応えるかたちで, 当時のエピソードなどの貴重な話を聞くことができました。

その後, 地域研修棟4階フロアで意見交換会が開かれ, 参加者と講師の先生方が親しく語り合いました。

翌日も, 朝9時から, 特集「ウイルスを観る」と銘打った, つぎの3つの講義がありました。

最新鋭の電子トモグラフィーも含め, きれいな電子顕微鏡像を駆使したウイルスの構造や増殖メカニズム研究の話, 表面反射干渉顕微鏡で細胞表面を動き回るウイルスの動きを捉えた仕事, そしてウイルス蛋白に蛍光色素を付けその細胞内での動きや細胞内の構造物に対する働きかけの様子を共焦点レーザー走査型顕微鏡で見た仕事の話がありました。

そのあと毎回恒例の, 知識の確認と娯楽を兼ねた, 獨協医大増田先生の出題による双方向無線「おさらいクイズ」があり, 1位は看護学校の先生, 2位以下に医学生や市職員がつらなり, 大いに盛り上がりました。

延べ156名もの参加があり, 講義の後, 会場からの活発な質問に先生方が丁寧に答えるという, いつもの熱気に満ちた会になりました。また今回から新たに, 学生さんたちの活発な質問を呼び起こす目的で, 良い質問をした

連絡先

〒983-8520

宮城県仙台市宮城野区宮城野2-8-8

独立行政法人国立病院機構仙台医療センター

臨床研究部ウイルスセンター

TEL & FAX: 022-293-1173

E-mail: vrs.center@snh.go.jp



第1日目終了後の集合写真, 講師の面々と, 熱心に講義を聴き質問に立つ聴講者たち

学生さんを「ベストクエスト賞」で表彰するという試みも加わりました。

この会は、「みちのく」という名を冠しておりますが、遠方からの聴講者も歓迎しております。皆様、ぜひふるってご参加ください。来年も、聞き逃せない講演を準備しております。

なお、本塾についての情報、実際の会のようす、そして講師提供による講師が講演で使用したスライドや講師の話

を聴講者が解説した聴講録を、当ウイルスセンター・ホームページのサイトに掲載しております。ぜひ、いちどご覧ください。(http://www.snh.go.jp/Subject/26/juku/index.html)

最後に、毎回、演者の選択には大きな努力を注いでおります。今年も、みんなに聞かせる面白い話はないかと、ウイルス学会の会場を右往左往する筆者です。自薦他薦、かまいませんのでぜひお声おかけください。

----- みちのくウイルス塾について -----

当塾は平成13年に始まった日本ウイルス学会教育研究支援委員会と当院の地域連携室の共催の講演会です。前者からはボランティアの講師とその旅費の提供、後者からは場所と宿泊施設の無償提供と意見交換会の資金援助をいただいています。

近寄り難いと思われがちなウイルス学への理解者を増やし、あわよくば将来ウイルス分野に進む若者が出てくれることを願って始めた会で、基本的に海の日を含む7月の3連休の最初の2日間に行い、土曜後スタート、日曜昼終了というかたちで行われています。毎回だいたい6人から7人の講師が講義をしますが、講師陣には、自分の得意な分野について、「素人にもわかる、わかりやすい話をする事」が求められています。

講師は、筆者の個人的な声かけで、ベテランから若手まで、ウイルス学各分野で活躍する研究者に全国からボランティアでお越しいただいております。中には、今年の芝田先生のように、かつて聴く立場で参加していた学生が講師になる人たちもいて、今後そういった人たちが増えてくれることを願っています。また、当代きっての研究者にならんで、将来が嘱望される大学院生にも、一般の人たちに対して自分の研究をわかりやすく伝える勉強という意味で発表の場を与えています。また、ウェブサイトに掲載する聴講録書きも、他のひとにわかりやすく解説する勉強として、書き直しや発表した先生方による添削を経ての掲載にしております。